Assembly 東日本予選甲 1 テーブル総評

ジャッジ：由浅（立教4） 真船（早稲田4） 真鍋（東大4）

テーブルメンバー

金井（早稲田3） 北川（慶応3） 日野（明治3） 矢田部（法市3） 石橋（明学3）
奥田（上智3） 能戸（立教3） 堀本（慶応2） 近藤（獨協3）

構成

0 はじめに

1 議論の流れ

2 順位選定理由

3 ジャッジからのコメント

0 【はじめに】

この総評はジャッジから見たテーブルへの理解をもとに述べています。実際に参加していたテーブルメンバーとは理解の齟齬があるかもしれませんが、ご容赦していただけると幸いです。

1 【議論の流れ】（文責：真船）

<Narrow>

北川の読む **Narrowing** に対し、金井が医療論題では医者気持ちを変えない限り解決されない為、**Comparison** は医者気持ちを考慮するものが出されるべきだ、というアイデアを出しました。それに対して北川が **narrowing** では **Comparison idea** について定義しないといい、そこでは深く議論はされませんでした。

その後、金井と北川がオピニオンプレゼンターとして立候補しましたが、投票の結果、金井の「プランを取るには政府の医療に対するスタンスを変えるべきだ」というオピニオンシートが選ばれました。

<Problem>

Problem に行く前に、金井のオピニオンシートの話仕方、スタンスを変えとは何か、などの質問がなされました。また、北川が普段のオピニオンシートの違いはないのはいいか、医療の話が **make situation better** に本当につながるのかというダウトを提示しました。

<Necessity For Change>

石橋が「日本医師会と所属している医師との間に意見の齟齬があることが否定できない為、touch するべきではない」という反論を示しました。この話は Comparison area で話すべきだという日野の意見で収束しました。

<Practicability>

北川による「プランを取るに値する Comparison が何かをここで話すべきだ」という議論が展開されました。北川は practicability では政府が cause をなくすことができるかどうかを確認することがタスクである主張したのに対し、金井は日本政府が a/I/1 の政策をとる力があればよく、今回は日本医師会が政府に提案すれば政府は従うケースがあるので practicability があると主張した。このタスクの齟齬は解決されることはありませんでしたが、日野の cause sentence を変えればお互いが解決するのではないかという提案を金井が受け入れることで話が収束しました。

その後、能登、奥田による反論が行われました。能登の反論は「ターゲットの性質を比較せずに医療に対するスタンスを決めた前例がない」というもので、また奥田の反論は「医者が患者の中に優劣をつけることが間違いだ」というものでした。両者とも、金井の Comparison area で同じ論点が話せるのでそこで話そう、という提案で収束されました。

2 【順位選定理由】（文責：眞鍋）

i. はじめに一ジャッジとして全体の感想—

議論全体としては後から考えると何を話していたのかよくわからないという甲テーブルあるあるみたいなテーブルでした。自分は何がしたくてしゃべっていたのかよく問いかけてみてください。

細かい論理矛盾やオピシの穴を見つける点ではみんなとてもよくできていました。でも大まかな議論の流れを確認してくれる人がいなかったため最後までぐちゃぐちゃして終わってしまった印象です。議論には常に大まかな流れが存在していて、それを見失わなければ大外れな議論をすることはなくて済むはず。テーブルに議論全体の流れと現在地を提示し続けられる人がいれば間違いなく 1 位だったと思います。まあ一生懸命になると視野狭くなる気持ちはとてもわかるけど、これからそういうところを頑張って欲しいです^^

甲テーブルというだけあってみんなよく頑張っていました。勝ちへの執着からか手を使ったさえぎりやかぶせ合いなどがあったことは残念です。傾聴力ががんばろう

ii. 順位とよかったところ、がんばってほしいところ

1 位金井(早稲田 3)

オピニオンプレゼンターとしてコンスタントな介入を行っていました。勝ちへのゆるぎない姿勢がいさぎよかったです。みんなが言いたいことを言うだけ行って行き場のなくなってしまった議論を形式だけでも先に進めていけたところが評価されました。進行能力にとても優れていると思うのでこれからも誇りを忘れずに頑張ってください

オピニオンシートは、もう少し詰める余地があったと思います。としみを筆頭としたテーブルメンバーの指摘はもっともだったし、結局いつもの議論と何が違うのか曖昧だった気がします。進行能力はあるので、もっとマクロな流れをみんなに示してガイド役みたいになれるとよかったです。

あとは、"Confirm?"で手を上げているのが印象的だったのですが、手をあげるのはいいとしてその流れで手で遮るのはやめましょう笑 それからできれば"In my thinking, ~"ではなく"I think ~"とかがいいんじゃないかな

2 位日野 (明治 3)

発言数は1位に比べて少なかったものの、質のいい介入が評価されてこの順位となりました。何度も同じ議論が起こってしまっているところで話を整理し、先に進めるSを打っていました。みんなが納得できるようなSを打っていたところがとてもよかったです。質が良かった分、もっと介入してほしいなあといいところではあります。自信をもってください^^

質は高かったものの、Sに至るまでの話の整理手順の説明や、Sの細部が少し雑だったところが残念です。また、基本的にオピニオンプレゼンターを支持するスタンスだった分、ややアーギュの意味理解がざっくりだったので、傾聴力を身につければ無敵だと思います。アーギュメンターに対しても優しい姿勢を見せればもう少し早く解決に迎えていたはず。

3 位北川 (慶応 3)

テーブルでただ一人コンスタントにオピシの対抗馬となる意見を出し続けていたところが評価されました。内容の理解力、起こりうる議論の予測力はテーブルでもっとも優れていました。思考停止に陥らなかったところは素晴らしかったです。どのアーギュメント・ダウトも内容自体は正しいものと思われたので、これからもその思考力を後輩に教えてあげてください^^

内容が正しかった分、矢継ぎ早に気になったオピシの穴をすべてつつきに行ってしまうことでテーブルメンバーやオピニオンプレゼンターから警戒されてしまったことが残念です。3時間という限られた時間なので、結論に関係のない理論矛盾などには目をつぶって自分が大切だと思うところ1つを最後まで押し通せばよかったと思います。

4 位 矢田部（法市 3）

介入量は少なく、かぶせあいが起こってしまい有効ととらえられた発言が少なかったものの、ヒートアップしたテーブルを落ち着かせ、テーブルの中では最もマクロと考えられるCやSを打っていました。上位3人が目に見えていらいらしていたので、そこに道筋を示しつつテーブルをいらいらから遠ざけていたところはとても立派だったと思います

介入がテーブルに対して有意義であったと思える分、かぶせあいになってしまった際にすぐに引いてしまっていたところは残念です。エデュケでは自信をもって頑張ってください

5 位 石橋（明学 3）

テーブルが放置しようとしていた部分を、非難を恐れずしっかりと確認していたところがよかったです。また、上位の人たちによってさえぎられてしまったため有効発言としてはとらえられませんでした。が、「方法論の議論を続けるのは不毛だから内容に入ろう」と言っていたところは個人的に高く評価したいです。これを有効発言にできていたら貢献はとても大きかったと思います。

ディスに対する姿勢が誠実だった分、自分の思っていることを表現しきれなかったことが残念です。何が言いたいのかはっきりわかるプレゼンをできるようになれば、よいエデュケーターになれると思います^^

6 位 堀本（慶応 2）

テーブルの中で唯一の2年生でしたが、比較的コンスタントな介入がみられました。オピニオンプレゼンターの金井、アーギュメンターの北川の意向の両方をよく理解していると思われる発言が多く、優れた理解力と思考力をもっていると思います。

説明の仕方が単発で議論の結果へのつながりが見えないため、ただ時間を費やしていると誤解されがちだったことは残念でした。来年の春セミに向けて理解力と思考力を活かせる議論構成力を身につけてがんばってください

7 位奥田（上智 3）

上位層におされ発言を思うようにできていないようでしたが、最低限ききたいことをきちんと聞き出したことが評価されました。

ディス中は話を遮られたりと悔しい思いもしたと思いますが、甲テーブルに行けたことに自身をもってこれからは後輩の前でもしっかりと自分の意見を押しだしてがんばってほしいです^^

8 位能戸（立教 3）

上位層に臆せずアーギュメントを提示したことが評価されました。はじめは今回のオピシに適合していないアーギュを出すのではないかと心配しましたが、きちんと今回のオピシ用にアレンジしたアーギュを出せていてよかったです。柔軟な思考力があると思います。

バランスのよいコミュニケーション能力をいかして、後輩とディスをするときにはオーラウンダーとしてがんばってください

9 位近藤（獨協 3）

かなり前のめりな上位層におされながらも、重要な局面でいいアイデアを思いついたときにはきちんと提示することができたことが評価されました。

うまく使えば解決に導けそうな Q や C を提示できてはいたものの、遮られて解決までもっていけないところがあり残念だったので、自信をもってがんばってほしいです

3 【ジャッジからのコメント】

（文責：真船）

今年最後の順位のつく大会はどうでしたか？

アッセンへの思いは人それぞれだと思いますが、私にはみんな最後までしっかり戦い抜いたように見え、かっこいいなと思いました。

3年生はプレイヤーを引退しますが、ディスを通して得たつながり、考え方を大事にして後輩を助けてあげてください。しゅーじは来年もあるからいっぱいプレパして頑張るって

ね、応援しています！

みんな本当にお疲れ様でした！

(文責：眞鍋)

色々を書きましたが、甲テーブルに来れたということは、おそらくこれからのディス界を引っ張っていくのだと思います。これは私ができなかったことで反省していることですが、ランクの取得をゴールとしてではなく、一つのステップとしてこれからもがんばってください、期待しています本当におつかれさまでした

(文責：由浅)

皆様、御機嫌よう。甲1テーブルのジャッジを務めた由浅です。現役の皆様はここまで本当に頑張ったと思います。お疲れさまでした。さて、甲1テーブルをジャッジさせていただいた者として、いくつかコメントを残したいと思います。最後まで読んでくれた方には、報酬としてぺろぺろキャンディー1年分を差し上げますので、読み終わった方はその要約と感想をA4に3万字以上にまとめて私の祖母まで提出してください。皆様のご応募お待ちしております。

さて、そろそろ本題に入ろうかと考えては止め、考えては止め、来る日も来る日も食っては寝てばかりいるそこのあなたに申し上げます。申し上げたいことは頭の中でじっくり時間をかけて構築された言葉でお送りいたします。それは総評という残る文章において、言葉選び一つで読者に与える影響は大きく変わってくると考えるからです。何年も前の総評を見返した経験がある方もいるように、これらの文章はこの先の多くのディスカッサントの知恵を築いていくマテリアルになるわけです。つまり、時代に左右されない普遍的な言葉で伝えていかなければ、それは何の価値もないということなのです。それらを踏まえて、それではいきます、、、

「ディスカッションは協議でありながら競技であり、それ故に面白く、小賢しい」

この言葉に尽きると、ええ。そもそもディスカッション自体は論理性の塊で成立すべきだと思うのですが、競技である以上、それ以外の要素が一定の力を持つてしまうこともあるかと思います。ですから、皆様が経験した様々なテーブルの空気感、テンポなどが生じ、テーブルによって「やり易さ」、「やりにくさ」が出るわけで、それらの要素に動じず、もしくは、それらをうまく利用してプレイできたディスカッサントが勝ち抜きやすいわけです。つまり、ディスカッションはかなり小賢しい要素を含んだ競技となっているわけで、その中でいい順位を残すというのは素晴らしいことで、なかなか思うような順位が出ない

ことも当然ですわ。競技ディスカッションはバトルですから、勝者と敗者がいます。もちろん勝者の方が **good** ですわ。でも、その勝者がドフラミンゴみたいに「勝者だけが正義だ」と語ってはいけないと思うのです。実際にドフラミンゴはモンキー・D に負けますし、正義はやはりディスカッション中に起こる論理性に依拠すべきなわけで、ドフラミンゴにも、もちろんモンキー・D にもあってはならないのです。論理に真摯に向き合っこそ真の正義がテーブルによって決まるのであって、その意味でディスカッションは正義の協議をなしているわけですね、深いですね。まあ、つまり何が言いたいかと言うと、要するに「ディスカッションを楽しんで、かつ順位が決まるなら、それが一番納得性もあるし、幸せだよね」ってことですよ w

話は変わりませんが、引退した3年生がよく、「ディスカッションが楽しくてやり続けたわけではないが、やっていたよかった」と言葉を残していきます。これではまだ足りません。私はディスカッションが楽しくて楽しくて仕方がない時がざらにあります。様々なテーブルで、新しいアイデアの発見は往々にしてありますし、「まじかつ！こいつがそんな **GOOD** な事言うんか!?!」と思わされる様々な考え方、イレギュラーな発言はいつもテーブルを面白くしてくれます。いつかの大会で、下級生からのダウトに冷や汗をかいた経験もありますし、ロジック勝負で負けそうになって、なんやかんやでごまかしたこともあります。その時、「あ〜、何が起こるかわかんねえ〜。深え〜。おもれえ〜。」と思うわけですよ。ですから、もっとみんなピュアな気持ちで **enjoy** すべきだと思うわけですよ。成績のかかっているというシビアな状況下の現役の皆さんに投げる言葉ではないかもしれませんが、ディスカッションは楽しいと思えるくらいにならないと、そういう先輩にならないと後ろが続かないんじゃないですかね。

長くなりましたが、本題に入りましょう。

「今日の本題がこれだ！！、、 1・2・3！！」

『甲1テーブルの議論に対するコメント by DJ モーリタニア』

議論の内容は真船が述べたとおりですが、私が感じたことを赤裸々告白のテンションで書いていきます。

まずは、金井投手が **OP** としてもがいておりましたね。お医者さん目線での臓器移植を望む患者さんと脳死者の比較をするという **opinion** でしたが、彼のコンパリアイディアは少し顔を覗かせただけで、結局は **opinion sheet** のどこでどういう **obj** を話すかということのみでこのテーブルは終焉を迎えてしまいました。あと、北川騎手が **OP** 立候補時に出していた刑罰の考えを基に **lose life** と **lose right** の深刻性に **priority** をつけるというアイデアも選ばれて然りだと思いましたが、選ばれずに終わったことをとても残念に思いました。

それでは大枠だけ話しても意味がないので、少し細かいところに触れましょう。多少解釈が人によって異なる可能性は無きにしも非ずですが、そんなことを言っているのは枚挙にいとまが無いということで、始めさせていただきます。

序盤は、日野君が金井投手のコンパリ像がいわゆる **situation** コンパリであり、**priority** 間の **decision** コンパリを行うものだという引き出ししたり、北川騎手による「医者は患者を平等に扱うため、そもそも金井投手のコンパリアイディアの **priority** は意味を成さない」系ダウト、堀本 Jr.による「コンパリと **harm** の **S/M** の整合性が不十分！」などのダウトが飛び交いました。ここまでは、まあまあな形で進んで「ん〜〜、まあ、いいでしょう」と思っていました。

ですがあ〜〜、問題はその後である。金井君の説明の中で、「お医者さんが所属する **JMA** という組織を **persuade** することが大切であり、それ故に **cause** が **medical stance** なんだ」という発言がありましたが、この”**persuade**”という小賢しい単語が、「医者が納得するような政策の取り方をする」という解釈を生んだり、”**medical stance** “という悠長な単語が **practicability** において、**cause** の解消を吟味するのが当然だから、コンパリで話す内容と分けて行う、もしくは **cause** は通常の[J/G don't set up enough law]にしたままコンパリの **criteria** だけ追加する方が **opinion sheet** の整合性が取れるといった妥当な内容の発言ではあるが、ディスカッションという競技を考えた時に結果的には結論から遠のく **obj** を招くことになった。その回収に日野君、金井投手、矢田部族長が主に貢献しました。

そのあとは、能戸と奥田の阿佐ヶ谷姉妹によるダウトを **solution** で半端に検証し、終了したって感じの議論でした。要は、**opinion sheet** への柔軟な理解、対応、そして勝負どころの見極めが今回のテーブルでは欠如していたと考えられますわ。あと、金井諸島のおじさんのコンパリアイディアは治療の可能性がうんたらびーたらとかぼそつと言うてましたが、その深掘りをせずうまい飯は食べません状態でした。日野君や矢田部族長はあの中では、ゆったりと構え柔軟な発言を **try** していましたが、結果としては議論のスピードを上げられずにコンパリにはたどり着かなかったのが残念です。本当に大切な **OP** のアイディアに対してその議論の土台を皆に連想させられていたら、その他のダウトを蹴散らすことができ、明日はも〜っと楽しくなるよね。ね、ハム太郎！状態に持ち込めたかもしれないですね。

個人的には、やはり、お医者さん目線で患者間に優劣をつける行為を看過できませんアーギュメントがどこまでの展開を見せられるか話してほしかったですね。私シューマツハ伯爵から言わせるに、北川騎手が提示した刑罰で定められた規則を適応したアイディアだったりコンパリの話を転換させたりできたのかなとか思いましたね。お医者さんが一番望んでいることって何なんですかね？お金ですかね？だとしたらマンドートは臓器売買合法化に設定し、自由市場で取引された方がええとか？そういうお話もできるってことですかね？お医者さんが望むことは人命の救助に尽きるのですかね？小賢しいですわ。

医療論題は、命に関して何かしらの要素を根拠に **priority** を狙いにいく点で、ディスカッションという競技においてはアレンジの効きやすい論題だったと私は思いました。どんなに話が飛躍しても、最終的に **priority** との関係性を証明できれば、抽象論であれ、具体例であれ、競技としてはあつて然りと思います。今回のテーブルはその飛躍を嫌ったテー

ブルでしたが w

まあ、少しだけ被せ合いとかはありましたが、甲テーブルでそこまでぎくしゃくせずにアッセンを終えられたことはいい思い出になったことでしょう。ですが、堀本 Jr.を除く引退された3年生はこれからの余暇を **education** に費やしてくだちい。引退してから学ぶことが増えて、よりテクが上達することは世の常です。これまでの己のディスカッションの評価を自ら下して、より洗練された思考法の構築に全身全霊で取り組むことで、真の自分と向き合うことができるのです。更なる高みを目指して優しい王様になってください。

それでは、さよなら天さん。どうか死なないで。

～餃子より～